



須田 義大



滝口 清昭

形がつくる機能と作用

準静電界研究会 RC-74

1. 代表幹事

滝口清昭 (東京大学 生産技術研究所 特任准教授) 幹事

須田義大 (東京大学 生産技術研究所 教授)

連絡先

須田研究室

Tel : 03-5452-6195

Fax : 03-5452-6195 (同上)

e-mail : qef@iis.u-tokyo.ac.jp

2. 主旨

2003年、総務省の情報通信審議会において我が国の取り組むべき次世代の基本研究テーマとして、研究開発基本計画に「準静電界通信」が採択された。準静電界とは、金属や誘電体、人体等の周囲に静電気帯電のように分布させることができる情報フィールドであり、その主な特徴は、非伝搬波であり反射がない、波長以下の空隙も透過してセンシングができる、超低消費電力で利用可能なこと、また、光よりも分解能が高く高度なセンシングが可能などなどが挙げられ、人体通信・近接場通信から次世代半導体、センシング、医療計測分野まで含めて幅広く応用が期待できる新しい技術である。

この準静電界の制御のためには、従来の電波などの伝搬波のアンテナとは異なる、特殊な幾何学的構造が必要となる。言い換えれば、幾何学的な構造によってある種のメタマテリアルとして様々な機能をもたらすことが期待される。

本研究会では様々な分野における準静電界の応用可能性を意見交換し、その実現可能性を幅広い視点から検討する。

3. その他

期 間：平成27年4月～平成28年3月

参 加 費：賛助員の場合：20万円 (別途賛助員年会費1口10万円がかかります)
非賛助員の場合：30万円

定 員：参加社数制限無し、1社毎の参加人数制限無し

運 営 方 法：個別の打ち合わせを年3回程度、全体での研究会を年1回程度開催する予定であるが、参加企業の希望に配慮する。

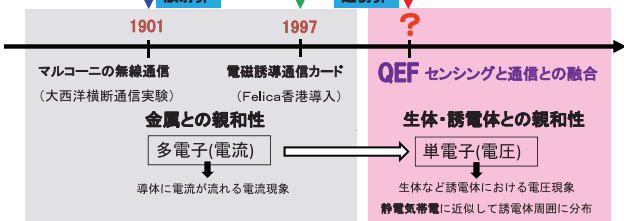
準静電界とは

電界を構成する3つの成分とパラダイムシフト

微小ダイポール例

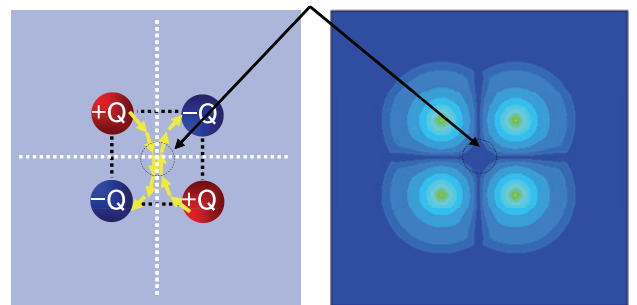
$$E = j \frac{60\pi l}{\lambda} e^{-j\beta r} \left\{ \frac{1}{r} + \frac{1}{j\beta r^2} + \frac{1}{(j\beta)^2 r^3} \right\} \sin\theta$$

r: 距離
l: ダイポール長
Q: 電荷
 $\beta = 2\pi/\lambda$: 位相定数
j: 虚数単位



準静電界と他の電磁界との違い

電界ゼロ領域 (相殺によるゼロ点)



4重極基本モデル

シミュレーション

多重極構造による電界制御